

ホスピタルストリート

No.06 /
Hospital Street 2023

地方独立行政法人香取おみがわ医療センター 新人の力



新たに医療職、事務職に採用された職員を紹介します。初めて仕事に就く職員、自分のキャリアを新たな職場で生かそうとする職員、地方独立行政法人香取おみがわ医療センターを支える新しい力に期待します。

10年後の未来に向けて

医療支援部 臨床工学科 大塚 武

10年後は医療機器のスペシャリストになっている。先輩方の技術を学び、自らも医学や医療機器の知識を深めることで、患者さんやチームとして働く他部署のスタッフから信頼される臨床工学技士を目指していきます。

附属看護専門学校 専任教員 土子 薫

実習初日で緊張していた学生が、患者さんと信頼関係を築き、「学生さん、来てくれてよかった」と温かい言葉を貰えるようになる。看護教員として、看護の楽しさを伝えて学生も患者さんも笑顔でいっぱいにしていきたい。

看護部 外来看護科 石井 依久世

10年後、新人看護師7名は患者さんやご家族に寄り添い、感謝と恩返しのお気持ちを忘れず、心温かい看護が提供できる看護師になります。それに向けて、先輩方に指導していただきながら、看護師としての経験値を高めて日々精進していきます。

事務部 管理課 高橋 しおり

職員一人ひとりが高い意識とやりがいをもって仕事に取り組み、一体感のある職場環境を実現したい。香取地域の中核をなす公立病院として、住民の皆様にも良質な医療を提供できるよう、私自身スキルアップを図っていきます。

住み慣れた地域にいつまでも暮らすために、

●医療・介護連携

地域医療連携班 社会福祉士

上野 裕子

患者さんやご家族を社会資源と「つなぐ」

地域医療連携班は「つなぐ」という役割を担うチームです。社会福祉士と看護師が在籍し、医療機関・介護福祉施設・行政や福祉等の院外連携、病院スタッフとの連携、そして患者さんやご家族から病気やけがにより生じる相談をお受けして、それぞれの立場から解決方法を探して必要

な社会資源につなぎます。

また、病院内が部署を超えて「話せる」「聞ける」雰囲気スタッフで満ち溢れていることが、「つなぐ」を支えています。

「あそこに相談してみよう」と思い出される存在、この地域の社会資源の1つとしての存在になりたいと考えています。

●訪問診療・訪問看護

訪問看護班 主任看護師

浪川 玲子

住み慣れたご自宅で安心した生活を

「時々入院・ほぼ在宅」と言われる今日、住み慣れたご自宅で自分らしく安心して生活ができるように、訪問看護を行っています。

在宅酸素や褥瘡処置、チューブ類の管理、清潔ケアなどの健康管理、また、ターミナル看護、ご自宅での看取り、ご家族の方の介護相談など

を行っています。病院が運営する訪問看護ですので、外来受診や入退院時の連携がスムーズに行え、また、医師の訪問診療も行っています。

「いざ」という時の安心感を持って生活していただけるように24時間相談ができる体制をとり、毎日心を込めて訪問させていただきます。



●介護支援(ケアマネジメント)

介護保険班 主任ケアマネジャー

内山 久代

介護サービスにより自宅生活を支援

年を重ねるごとに、徐々にできないことも増えてきますが、誰かに手助けをしてもらえれば、できることも増えて、ご自宅で楽しい時間が過ごせるのではないのでしょうか。

居宅介護支援事業所である介護保険班は、在宅の要介護者が適切に介護サービスを利用できるよう、ケアマネジャーが在籍しています。要支援・要介護認定者の居宅サービス計画の作成を利用者の皆様の立場になってお手伝いします。

少しでも皆様の力になればと思い、日々切磋琢磨してそれぞれにあった提案ができるよう心がけています。

地域医療支援室を、 効率的に機能させて



地域医療支援室長(看護師長)

菅谷 美重子

Well Beingな 地域包括ケアシステムを目指して

地域医療支援室は、その方の望む生活が送れるように、医療連携、訪問看護、居宅介護支援事業を担う、地域の療養生活を支援するワンストップな窓口です。

地域の医療機関との連携を図り、各施設の特長に応じた機能分担や専門性に応じて入退院の調整を行っています。また、ケアマネジャーやご家族からの相談により、地域包括ケア病床でのレスパイト入院*の受入れなど、地域からの要望に応える支援も行っています。

今後は入院前から多職種による支援を強化し、切れ目のない支援で、「Well Being」であるような地域包括ケアシステムの確立を目指します。



地域医療支援室スタッフ

アシステム

香取おみがわ医療センターができること

病棟、外来、在宅の 院内連携を大切に



内科部長

大橋 健二

地域包括ケア病床や訪問診療を 多面的に活用

地域包括ケア病床は、急性期治療後にそのままご自宅や施設へ移行するには不安がある患者さん、また、ご自宅や施設で療養中の方が病気となり一時的に入院療養される方などが、在宅復帰や施設入所に向けて診療・看護・リハビリテーションを行う病床です。一方で、在宅介護の支援として、医療管理が必要な患者さんを一時的にお預かりするレスパイト入院*も受け入れています。

急性期治療後の患者さんは、当院で手術をされた方や他の急性期病院での治療後の方を医療連携により受け入れていきます。

地域包括ケア病床への入院期間については保険診療上の制限はありますが、当医療センターでは、医師だけでなく、外来、訪問診療・訪問看護部門など、スタッフ全体で検討することにより早期の在宅復帰を考えていきます。



●病棟



東病棟看護科 看護師長(病床運営委員会委員長)

藤原 浩美

患者さんの思いに寄り添った 医療サービスを提供

入院患者さんの思いに寄り添った医療サービスの提供と、患者さん一人ひとりがその人らしい「暮らし」に帰るための支援の充実に課題として、今年度より医師を含めた多職種による病床運用委員会が発足しました。

急性期治療を終えた患者さんがスムーズに地域包括ケア病床に移り、リハビリテーションを継続しながら生活に必要な支援を積極的に行う仕組みづくりや、医療連携による地域包括ケア病床等への受入れの流れ、レスパイト入院*の体制づくりなどを行っています。地域の中核病院としての役割が果たせるよう効果的な病床運用をしてまいります。

●外来



外来看護科 主任看護師

三谷 聖子

「つなぐ」医療を大切にした外来看護を

地域包括ケアシステムが推進される中で、地域で療養する皆様の治療や暮らしを支える外来診療の役割はますます大きくなっています。当地域は診療所が少なく、ご高齢の方や慢性疾患を持つ方が多く受診されており、かかりつけ医としての役割も担っています。

外来看護科では、地域に出ていく活動として、グループホームの入居者に対する健康管理や看護の提供も行っています。入院医療と在宅医療の間に位置する外来診療においては、「つなぐ」医療を大切に、患者さん一人ひとりに寄り添った看護が提供できるよう日々心掛けています。

●リハビリテーション

地域包括ケア病床と同じ2階フロアにあるリハビリテーション室は、リハビリ庭園を臨みながら開放感のある治療環境となっています。



リハビリテーション室

*レスパイト入院…医療管理の必要な方が在宅療養されており、在宅介護が困難になった場合に一時的に病院へ入院すること。

新着情報

◆第1回市民公開講座“桜と川をハートに”を令和5年10月29日(日)に開催します。

メインテーマ 「健康長寿は歩くことから」

“正しく食べて、歩いて 糖尿病の合併症を予防しよう”

- 「食事で健やかに ～未来の自分へできること～」 管理栄養士 高安和美
- 「糖尿病の方もそうでない方も運動で健康増進を」 内科医師 永野秀和

“歩くために ひざ・股関節の痛み、最新の手術治療”

- 「良い姿勢と歩き方のポイントを知りましょう」 理学療法士 長門豊幸
- 「さあ、手術室の中を歩いてみよう」 手術科看護師 加藤婦美枝
- 「股関節や膝の痛みで困っていませんか？」 整形外科医師(非常勤) 瓦井裕也
～最先端の技術により辛い痛みからの解放とからだを動かす喜びを再び～



※詳細が決まりしだい、ホームページ等でご案内いたします。

◆看護学生が香取市民レガッタ大会へ参加

第18回香取市民レガッタ大会に香取おみがわ医療センター附属看護専門学校生が参加し、猛暑の中で熱い汗を流しました。4チームが参加し、2年生のチーム「のりこ親衛隊」は決勝へ進出して総合5位となりました。



◆小見川高等学校の生徒へ、 医療体験プログラムを実施

令和6年度から小見川高等学校に「医療コース」が設置されます。これに先立ち、香取おみがわ医療センターでは、7月20日と21日の2日間、生徒を対象に各医療職者から仕事内容の説明をし、その職種に対する理解を深めてもらいました。



◆Kameda Cup2023 in Kamogawa 3位入賞

7月16日、医療従事者だけが参加できるサーフィン大会が亀田総合病院前の海岸で行われました。

リハビリテーション科の穴澤作業療法士が出場し、ショートボードAの最上位クラスで3位となり表彰されました。



◆牽牛星と織姫星に願いを込めて (患者サービス向上委員会)

患者さんや職員が書いた短冊などを笹の葉に飾りました。玄関に短冊を用意し、来院された方にも願い事を書いていただき、飾り付けを行っていただきました。



左から2番目 穴澤 光

地方独立行政法人
香取おみがわ医療センター

TEL 0478-82-3161 (代表) FAX 0478-83-3032
〒289-0332 千葉県香取市南原地新田438番地1

休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始
診療受付 平日8時から(予約が必要な診療もあります)
診療科により診療時間は異なりますので、詳しくは
ホームページ等でご確認ください。
<http://www.hospital.omigawa.chiba.jp/>

